

次第

■こども未来課長挨拶

■議事

- (1) 前回の議事概要について
- (2) 優良事例の紹介について

講師：日本保育協会青年部 人材育成委員会
牛島健裕委員長(認定こども園きらり園長)

- (3) 主要課題の改善策について
 1. 仕事の負担感
 2. 働き方改革の啓発、広報

議事(2)優良事例の紹介

■アンケート調査(現役保育士300名、保育士養成校学生2,600名)

- ・仕事の負担感を感じているが、「仕事のやりがい」が実際の就業継続を支えている
- ・「仕事の効率化」は負の要因を軽減
- ・「理念・方針の丁寧な共有」「よりよい教育・保育をつくるためのアクション」「研修等の学びの機会創出」は正の要因を高める
- ・学生は「職場の雰囲気」を最重視して就職先を選択
- ・保育の現場を長時間見て就職先を選ぶ傾向が強い
- ・情報発信は学生のニーズを捉えた時期や方法を

■保育現場の働き方の事例

- ・保育士が選べる働き方(フルタイム、短時間)
- ・休憩室の充実やランチタイム制度の導入(保育室から完全に離れる時間確保)
- ・有給休暇取得の徹底(若手も積極的に取得)
- ・保育助手の導入(保育士の事務仕事の軽減)

議事(3)主要課題の改善策(委員の主な意見)

■仕事の負担感

- ・仕事内容を「見える化」することにより、保育士でなくてもできる業務を非常勤の職員に振る等ができ、本来の保育業務に時間と労力を費やせる
- ・事務処理作業時間の確保や事務作業担当職員の配置により、作業効率を向上させる
- ・連絡帳アプリ等のICTシステムの導入を促進
- ・ICTの有効性の理解を図るため、ICTの展示会やフェアを開催するとともに、ICTシステムの導入を支援
- ・行事の準備は、保育士の自己満足になっていないか、教育・保育に必要なものか、外部発注が可能であるか等を検討
- ・保育補助者の採用の促進

■働き方改革の啓発・広報

- ・園長が働き方改革の必要性を十分理解できるよう、セミナー等により意識の醸成を図る
- ・優良園の表彰やホームページでの紹介など、目に見えるインセンティブを付与
- ・仕事の標準化を進め、決められた時間内に必要な仕事を終えることがきちんと評価されるようにする
- ・定時まで帰る「理由」をつくる(ノー残業デー等)
- ・職員の休暇取得や持ち帰り仕事の減少により、保育士がゆとりを持ち仕事をするのが良質な保育の提供に繋がることが理解してもらう
- ・保育士の魅力を若い世代に発信するため、中学校や高校での出前講座や園での体験実習を実施
- ・保育士・保育所支援センターのホームページで各園の特徴や良いところをPRし、就職者向けの広報を強化